

■ 第1回口腔心身リエゾン談話会 ■

和気裕之 Hiroyuki Wake, 尾口仁志 Hitoshi Oguchi, 島田 淳 Atsushi Shimada
 杉本是明 Koreaki Sugimoto, 玉置勝司 Katsushi Tamaki
 口腔心身リエゾン談話会発起人

2021年11月28日(日), 第1回口腔心身リエゾン談話会をZoomにて開催しました。本会は、尾口仁志、島田 淳、杉本是明、玉置勝司(事務局)、和気裕之(代表発起人)の5名の発起人により「連携から協働へ」をテーマに立ち上げられた口腔の心身医学談話会です。当日は日曜日にもかかわらず日本全国から、歯科医師のみならず、医師、公認心理師、歯科衛生士など58名の参加のもと、午後1時から4時までの3時間、記念シンポジウムを行いました。

開会の辞に続き、玉置勝司(神歯大)が本会の趣旨説明を行いました。「口腔顎顔面領域に症状のある患者のなかには、心理社会的要因などの影響で、歯科医師だけでは対応が難しいケースがあることがわかってきました。そこで、より心身相関を考慮して、これまでの連携から一步進んだ協働への、多職種による新しいリエゾン診療を構築する目的で談話会を発足した」旨を報告しました。

最初に医科領域から、水野泰行氏(関西医大、心療内科医)が「心療内科医が患者を診るとき考えていること」と題し、心身医学・心身症・心療内科の解説をされました。そのなかで、心身症が「軽い精神疾患」という誤解や、また、「心因性」という用語について、心因は1つの要因であることから、患者に誤解を与えないように使用しないことなど、具体的な注意点も呈示されました。さらに口腔領域で心理的要因を考慮しなければならな

い症状・疾患の特徴を述べた後、原因がわからないまま安易に歯を削ったり、抜歯してしまうことの問題点を指摘されました。

次に関連領域から、安保寛明氏(山形県立保健医療大、公認心理師・精神保健福祉士・看護師・保健師)が「コンコーダンスモデルを用いた健康行動への動機づけ」と題して講演されました。そのなかで、救急医療から使われるようになった「コンプライアンス」や、HIV重症化予防で一般化された「アドヒアランス」が医療の現場で一般的であったが、さらに患者と医療者の共同意思決定である「コンコーダンス」という考え方へ進んでいることを紹介しました。そして、一部のガイドラインや看護師教育課程でも取り入れられてきている状況を解説されました。

最後に歯科領域から、和気裕之氏(みどり小児歯科、歯科医師)が「歯科心身症を再考する—歯科心身症の概念の検討—」と題し、歯科心身症の用語・概念の統一がなされていない現状を解説しました。そして、さまざまな定義で考えられている歯科心身症を整理し、「歯科心身症の概念(2021)」の試案を呈示。特に心理-社会的要因の強い患者に対しては、多職種との協働も含めた対処法を知っておくことが必要であると述べました。

参加者による、セッションごとの質疑応答も活発に行われ、次回は本年の4月24日(日)に行われることが事務局より報告されました。

【事務局からのお知らせ】

「第2回口腔心身リエゾン談話会」の予定

開催日時：2022年4月24日(日)
 13:00~16:00

シンポジスト：

島田 淳先生(グリーンデンタルクリニック理事長・神奈川歯科大学特任教授)

前田駿太先生(東北大学大学院教育学研究科准教授)

中村和弘先生(名古屋大学大学院医学系研究科教授)

第2回は、本談話会のメインテーマである「心身相関」をベースに、1) 歯科医学から、顎関節症および咬合違和感を中心として口腔に出現するさまざまな心身症としての病態像に、豊富な治療経験をもつ島田先生、2) 臨床心理学から、認知行動療法の理論と口腔疾患への応用を実践されている前田先生、3) 基礎医学から、サイエンスにも掲載された「ラットでの心身相関の神経伝達回路の仕組み」を解明された中村和弘先生、をお招きしてお話ししていただきます。ご興味のある先生方、医療従事者の皆様は、下記、事務局までメールでご一報ください。

事務局：神奈川歯科大学総合歯科学講座顎咬合機能回復分野 玉置勝司 (tamaki@kdu.ac.jp)